



# 飼料作物の食わせ方

家畜のなかでも反すう動物(牛、羊)はエサをよくかまないで荒がみのまま第一胃にのみこみ、そしてかみなおしをしてまた第一胃へもどり、次に第二、三、四胃に送られる仕組みになっています。そこで、飼料の与え方(草、葉等)も短かく切ったものと、長く切ったものとどちらがよいかが問題となってきました。

一、草や青刈飼料はどのくらいに切つてやるのが一番良いでしょうか。

チモシ(生草)をせんせん切らない長いままのもの、二分の長さに切ったもの、四分に切ったもの、八分に切ったもの、一寸五分に切ったものとわけて、それぞれ五七五〇〇匁づつをエサ桶に入れ八

頭の肉牛に自由に食わせ、十六日半たつてから、どれをいちばんよく食ったかを調べてみますと、一寸五分に切ったものはせんぶ食ってしまいました。

その次にたくさん食われたものは八分のものでしたが、八分以下の長さで切ったものは、それと比べると短かく切ったものは、食った量が約二割しか食っていません。

またアルファルファの生草を、一寸五分に切ったものと、二分、八分、一寸五分に切ったものとに分けて八頭のホルスタイン種の乳牛に食わせてみたら、長いままのものをいちばんよく食ったというところのことです。

以上の実例が示すように、草や青刈飼料はむしろ長いまま放りこ

んでやった方が家畜がよろこんで食うものです。

しかし長いまま食わせると、家畜はそれを全部食わずに、水気の多い、やわらかいところをえらんで食って、かたいところを食い残してしまふ場合が多い。栄養面から考えれば、家畜がえらんで食う水気のあるやわらかいところは、かたい部分よりも栄養価がある。だから自由に好きなまま食わせ

た方が、それだけ充分に栄養分が家畜の体内に入り、濃厚飼料を節約することが出来るわけです。また切る手間がいらぬから労力的にもたいへん都合がよい。

切る長さはあまり短かく切らずに、馬なら一寸二分、牛では三寸くらいに切つてやるのが理想的です。

二、飼料を煮てやるのは消化によ

いかに

エサを煮て食わせると、デンプンの消化はよくなりますが、タンパク質はかたまつて逆に消化がおそくなります。したがって、肥育中の家畜にアブラをつけるためや、病気がかかっている家畜や、お産直後の母畜に力をつけるためにはデンプン質のエサ(たとえばイモ類)を煮てやった方がよいが、その他の健康な胃腸の丈夫な家畜には、煮てやっても手間と燃料をつかつただけの効果はありません。

とくに牛にサツマイモを煮てダ

イズカスをまぜて食わせたり、豚に魚のアラとサツマイモを煮てやると、イモのデンプンだけが早く消化されて蛋白質の消化がおくれるので、かえつてうまくない結果が生じます。

また牛に牧草を煮て食わせたら蛋白質の消化が三割五分もわるくなったという実験もある。

三、食欲を満足させないと消化がわるい

食わせすぎはもちろん胃腸をいためて消化をわるくするが、家畜の食欲をみたすだけの量を与えないと、やはり消化はわるくなる。

とくに牛は八斗ぐらいの容積が入る第一胃の中に八分目ぐらいはエサが入っていないとかみなおしがよく行われないで、消化がわるくなる。また豚でも大豆粕や魚カスばかり食わせていたのでは、黄づまりをおこしてしまいます。

したがって、家畜の食欲を満足させて満腹感を与えるにはどうも、草や飼料作物のようなカサの大きなエサをたぶり食わせてやらなければならぬ。

牛馬に一日に食わせる量の目安は、生草なら体重の一分から一分二分、青刈飼料なら体重の八分から一分、乾草なら体重の二分から三分にわたるがよろしい。(畜産課)

# 夏休みの子どものしつけ

夏休みは、親子さんにとって一頭のいたしいシーズンだといわれます。しかし、子どもたちの幸福な成長のために、あまり頭をいためず、もつと夏休みのもつ教育的な意義を考えて、子どもにとつても親にとつても楽しい夏休みであるようにしたいものです。

(1)、心身の健康を第一義とした生活設計をたてましょう。夏休みに入る前に、受持の先生とよく相談し、また子どもと話し合いをして、子ども自身に、無理のない日課表を作らせることです。最初は、とかくはりきりすぎて、欲ばった計画をたてて三日ほらずにならなくなると、少しゆとりのある計画をたてて、それを規則正しく守らせることが大切です。進学補充教育やアルバイトや家庭労働だけを中心とした計画は、もろろんいけません。

「……するな」とか「……せよ」というような他律的なものでなく、子ども自身が「……しよう」という自主的な意欲に満ちた計画であることが、何よりも大切です。

(2)、いくら健康を中心にするといつても、単なるからだだけでなく、日々の常軌的な生活規律と運動、読書、仕事、リクリエーションなどが、体力と能力に成してバランスがとれていなくてはなりません。からだの強い子は積極的に鍛錬し、病弱をもつた子はこの機会に適切な養護と治療を加えるべきでしょう。また、教科書以外の本に親しみ、本を利用する態度をつくることもたいせつなことです。

(3)、不良化や不慮の事故等から子どもを守りましょう。夏祭り、納涼大会、キャンプ等、外出の機会が多いので特に交友関係や服装などに注意し、外出時間の制限や保護者の同伴等によって、不良化を未然に防止したいものです。また、水難事故や交通事故等も起りがちです。特に、学校からの注意事項を厳重に守らせましょう。特に、水泳については、必ず泳ぎのできる年長者といっしょに行くように、じょうぶな監督をしてきたきたいものです。

# 始良町史蹟めぐり (4)

天福寺 (2) 木津志小 松永守道

前記の二書に、福昌寺十八世代賢和尚が天福寺開山であると書かれており、また元和三年松平定行夫人千鶴姫の嫁入りよりも古い墓碑が天福寺にあることなどから千鶴姫の創建とは考えられませんが、この代賢とは何人か……鹿児島の島津家菩提寺福昌寺住持をみますと

十八世代賢和尚 諱守仲嗣法喜冠和尚、薩州人中俣氏

永正十二年誕 永祿四年十一月七日住当山

天正十二年二月十五日化福昌寺室寿七十と書いてありますから天正十二年(一五八四)には死んでおられると推察されます。

元和三年(一六二二)に死後三十三年へたつておられます。

元和三年当時の福昌寺住持は二十四世桃屋和尚のころですが、一翁は師であり、しかも福昌寺の偉大な住持であった代賢を、その死後であったにしても開山と頼んだのかも知れません。

この代賢を開山に仰いだ例は加治木の長年寺にも見られます。

元、大樹寺といった長年寺は城の下から木田に移され島津家の菩提寺となりましたが、由緒創建等、不明でした。

所が寛文年間、寺の本末改めがあった時、由緒がはっきりしないというので、天福寺の末寺になされた。そこで長年寺側では怒り天福寺に談判し、又加治木

# 県下に誇る重富海水浴場



重富海水浴場は七月十五日海開きをしてから、連日家族連れなど数千人の海水浴客でにぎわっています。毎日三十三、四度という暑さが続くせいもあるか鹿児島市内からも自家用車の家族連れや、貸切バスなどで、色とりもあざやかな着姿の若者たちが清い浜辺の一時を楽しんでるが七月二十九日は遠く宮ノ城からの団体客が貸切

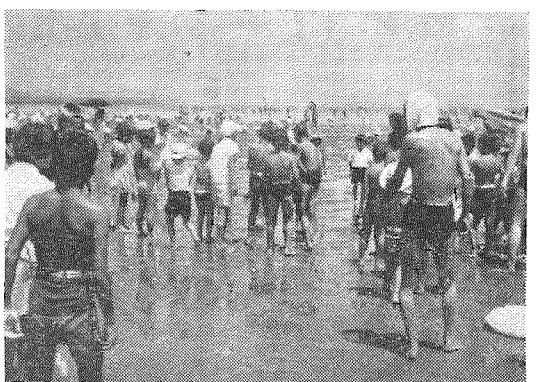
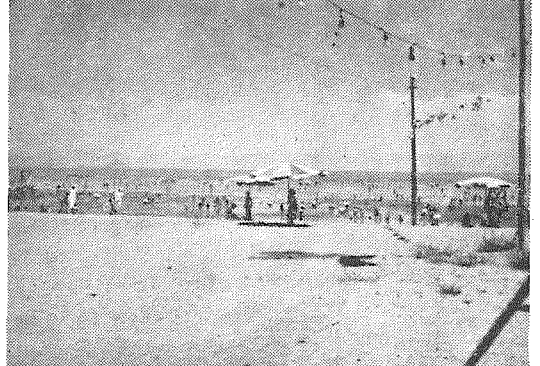
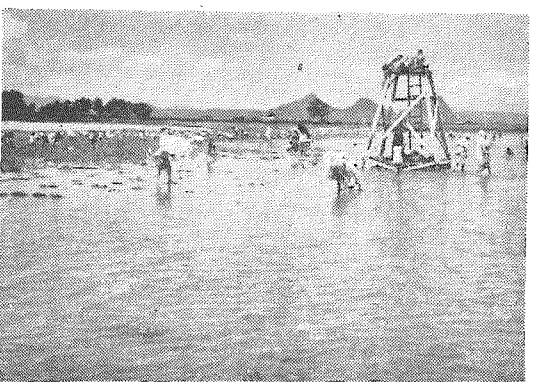
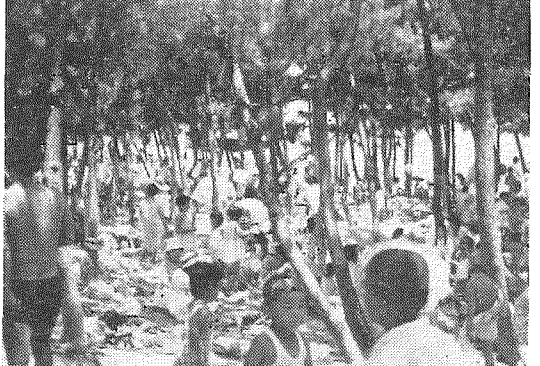
重富海岸は海水浴だけでなく干潮時には汐干狩り、満潮時には魚釣りができ、まさに県下一の海水浴場ともいえましよう。

汐干狩りやキス釣りも賑わう

重富海岸は福昌寺へ申入れを千鶴姫時代よりも、ずっと前からあつたものが、徳川初期のころに賢和尚としました。時に寛文九年十月四日のことでした。

この代賢開山の例でもわかるように、創建沿革が不明であったり衰微した寺を再興したりした時、或寺の中興の英主といわれるような立派な坊さんを、自分の寺の開山に仰いだこともあつたことがわかりました。

天福寺の古くからの沿革も不明な為、元和頃、松平千鶴姫が再興された時、開山もはっきり定められ、それ以来の由緒や再興趣旨を千鶴姫が書いて寺に納めたものが、帖佐由来記の「知行由緒お書物の通し」のお書物に当るのしょうが、これは今日残っておりません。こう考えてきますと、天福寺は



領地一町に対し一尺の石垣づくりの割当てがなされたことを表わしています。この二名とも坊さんで俗姓はわかりません。このころ、帖佐の大部分は留守刑部左衛門真用の領地で、脇元は蒲生家、船津は台明寺の僧葉心坊のものになっています。

この加治木岩屋寺とは山一つへだてて天福寺にあっていますが、或は天福寺の創建は為平が行ったものではないかと思われま

七百年前のこの時代は、年号を寺名によくつけてありますが、天福寺も時の天福の年号を取ったものとするれば、天福元年(一〇二二)に創建されたものでしょう。

四條天皇時代、執権北条泰時ころ、天福は元年と二年しかありません。改元を考えていけば、西紀一三三三年の四月十五日から翌年十一月五日までが天福年号で、満一年六月余位の間に、着工し或は竣工したものかもしれせん。